

福井県におけるミノコバイモ (*Fritillaria japonica* Miquel) の分布

若 杉 孝 生

筆者は福井県におけるコバイモについて、福井市立郷土自然科学博物館博物同好会会報第19号(1972年)及び第20号(1973年)にアワコバイモ(*Fritillaria japonica* Miquel)として紹介したが、その後、鳴橋直弘先生の研究により、花被片の先端の形や葯の色、染色体の違いなどから、これまで総括的にアワコバイモとよばれていたものを2種に区分し、四国に分布するものをアワコバイモ(*F. muraiana* Ohwi)、本州に分布するものをミノコバイモ(*F. japonica* Miquel)とする見解がとられた。したがって、福井県に産する〈コバイモ〉の和名をミノコバイモに訂正したい。

※

※

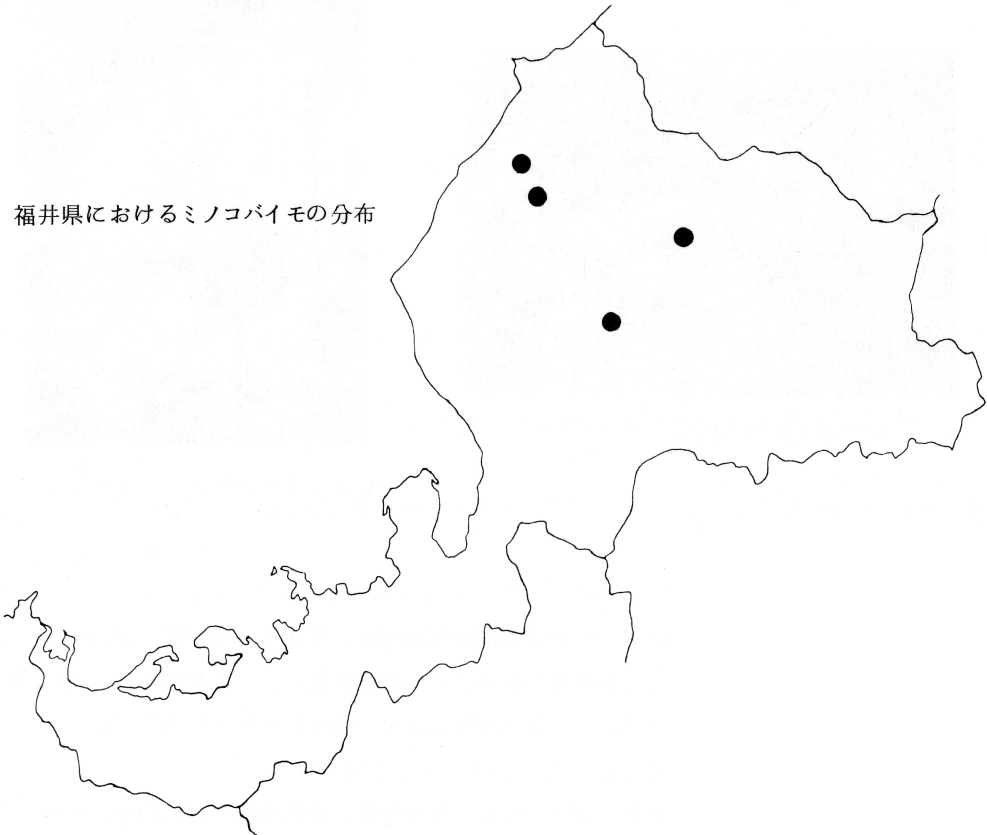
※

※

ついでに福井県におけるコバイモの分布についてかんたんにふれておきたい。

福井県で始めてコバイモの名が記録されたのは、昭和8年の〈福井県生物目録〉上であろう。それには〈*Fritillaria japonica* Miq. テンガイユリ(コバイモ)〉とあり、産地は〈(今立)

福井県におけるミノコバイモの分布



南中山 岡本>と記されている。(全P.78)その後長い間、この産地が岡本の何処であるのか分らなかったが、昭和50年の4月に、筆者はその生育地を確認することが出来た。そこでの生育状況はきわめて悪く、ほとんど消滅寸前の状態であった。しかし昭和8年に記録されてから現在まで、このような人家近くの場所で、開発のあおりをくいながらも50年近くも生きつづけていたことは、きわめて幸運なことと言わねばなるまい。以下に本県におけるコバイモの採集記録をあげてみよう。

- 1) 昭和8年 今立郡南中山村岡本(現、今立郡今立町岡本)(福井県生物目録)
- 2) 昭和43年4月16日 福井市深谷町(筆者)
- 3) 昭和48年4月5日 福井市大年町(小林貞七氏)
- 4) 昭和52年4月17日 足羽郡美山町吉山(松田秀次氏)

現時点では以上4ヶ所が確認されていて、すべてミノコバイモ1種と考えてよい。本種によく似て、花被片の縁や内側の腺体近くに突起のでるコシノコバイモ(*F. koidzumiana* Ohwi)は、北陸及び東海の一部に見られるが、福井県ではまだ確認されていない。

尚終りに福井県のコバイモについてご教示いただいた前川文夫先生、それに直接現地をたずねられ同定いただいた鳴橋直弘先生に厚く御礼申し上げたい。



足羽郡美山町吉山のミノコバイモ



福井市大年町のミノコバイモ

<主なる参考文献>

- 原寛・金井弘夫：コバイモについて 植物研究雑誌第32巻第6号P.188~189(1957)
- 大井次三郎：コバイモのことども〜新産地と研究史〜 植物採集ニュース第27号P.27(1966)
- 鳴橋直弘：アワコバイモとミノコバイモ 植物分類、地理 第25巻第1号P.9(1971)
- 鳴橋直弘：クロユリの仲間 新花卉Vol.78 P.27~31(1973)
- 鳴橋直弘：日本産バイモ属の3新種 北陸の植物 第26巻第4号P.88~93(1979)